



今できることプロジェクト

2021-2022

復興から伝承へ

レポート

石巻・牡鹿地域の資源活用支援

石巻市

「牡鹿半島の海洋と森の恵みを体感バスツアー」

実施/2022年2月26日 参加者/33人



命を守る教訓と、地域再生の展望を求めて。

津波の襲来のみならず、直後の火災によって多くの犠牲者が出た石巻市南浜地区。

その鎮魂の場であり、命を守る教訓の伝承を目的とした「石巻南浜津波復興祈念公園」からこのバスツアーはスタートしました。続いて、震災後に地域住民の数が激減し、半島の大半を覆うほど豊かに息づいていた森の荒廃が加速している牡鹿半島を訪問。この難題に取り組んでいる「一般社団法人おしかリンク」のメンバーとともに、森林再生を目指すユニークな活動に参加しました。

町並みの記憶をたどりながら 災害から身を守る教訓を再確認

33人の参加者を乗せたバスは、最初の目的地である「石巻南浜津波復興祈念公園」へ向かいました。途中、石巻観光ボランティア協会の語り部である齊藤孝志さん、三浦浩さんと合流。お二人は、石巻市中心部から南浜地区へ至るバスの車中、震災被害の大きさや当時の様子などについて語ってくれました。復興祈念公園に到着した一行は、「みやぎ東日本大震災津波伝承館」の館内へ。シアタールームでは「くりかえさないために」と題された記録映像を視聴しました。津波が押し寄せる実際のシーンが映し出されると、思わず息を飲む参加者も。名取市閑上地区で活動している語り部ガイドや救助活動に当たった陸上自衛官など震災に直面した人々のインタビュー映像も、大きな教訓のメッセージとなりました。



石巻観光ボランティア協会の語り部 齊藤孝志さん

館内の展示を見学した後、語り部の解説による園内散策へ。かつてこの場所に多くの人が暮らす町並みがあったとの説明を受けながら、一丁目の丘、追悼の広場、祈りの場などをたどり、一帯を見渡せる丘の上からは、公園入口の向かい側にあり、今年4月に一般公開が予定されている震災遺構「門脇小学校」を確認。津波とその後起きた火災によって激しいダメージを受けた当時そのままの外観を目にし、あらためてその被害の甚大さを知りました。語り部の齊藤さんは、「過去の災害に学び、大災害に備えて日頃訓練しておけば、命が助かる可能性が高まることを皆さんに知ってほしいです」と結びました。



写真上/一丁目の丘から震災遺構「門脇小学校」を眺める参加者たち
写真下/震災で亡くなった石巻市民の名前が刻まれた慰霊碑

森の再生を目指す活動を知り 半島の未来を思い描く機会に

森の再生を目指す活動を知り 半島の未来を思い描く機会に

復興祈念公園を後にし、バスは牡鹿半島を目指して出発。午後の活動に備え、桃浦地区で日本料理店と民宿を営む「瑞幸(ずいこう)」で、ランチタイムを過ごしました。大広間で待ち焦がれていた参加者の前に出されたのが、2019年に商業捕鯨が再開し、新鮮な味わいが楽しめるようになったクジラ料理の定食。紅白仕立てのお造りとたたき風ステーキの両方が味わえるぜいたくなメニューで、参加者はみな大満足の様子でした。



「瑞幸」自慢のクジラ定食でランチタイム

昼食後、一般社団法人おしかリンク代表理事の大塚恵介さんが参加。スライド映像を使いながら、震災後、増えすぎたニホンジカが山林の荒廃を招いている地域の課題について説明しました。その対策として、シカが好まないウリハダカエデを植樹し、その樹液を採取してメイプルシロップを生産するプロジェクトについて紹介。「大切な地域資源である在来の自然を守ることも、若者が減ってしまった牡鹿地域になりわいを作る一助になるのではと考えました」と、着手のきっかけを語りました。さらに、樹液を採取する具体的な方法を解説。誰もが期待に胸を高鳴らせながら、活動の地に向かいました。



半島の自然について語る おしかリンク代表理事の大塚さん

ウリハダカエデの樹液で 牡鹿半島産のメイプルシロップを

バスで海岸沿いを数分、2017年にオープンした宿泊・研修施設「ものうらビレッジ」では、おしかリンクメンバーの土橋剛伸さんと沼倉隆樹さんが、一行の到着を待ち受けていました。参加者たちは、ここからポリタンクとシリコンチューブ、青いリボンを手にし、現在は閉校してしまった茨浜小学校のそばを通って、ヒノキやアカマツが茂る山道に入りました。10分ほど進んだ先の急斜面で、樹液採取に最適なウリハダカエデ探しがスタート。木肌の黒い斑点を手がかりに見つけ出し、参加者がこれだと確信したら、大塚さんらが樹木尺で計測。直径15〜20センチに達した成木であることが判明したら、その幹に穴を開けてチューブを射し、ポリタンクを設置します。透明な滴がポタポタと垂れ始めると、真剣に見つめていた大人も子どもも大喜び。指ですくって味わってみると「ほのかに甘い感じがするよな...?」と首をひねります。すぐそばで見えていた大塚さんが、「この樹液を2週間か



左から、おしかリンクメンバーの土橋さん、大塚さん、沼倉さん

けてため、40分の1の量になるまで煮詰めるとメイプルシロップになるんですよ」と教えると、「本当にたくさんの量が必要なんですね!」と驚いていました。採取には冬の気温条件の見極めが求められるそうで、大塚さんは「皆さんに、樹液が採れる様子を見ていただけてうれしいです」と安堵(あんど)の笑顔を見せていました。

今回の参加者がポリタンクを設置した樹木に、目印の青いリボンを結んで活動は終了。少量ながら完成したメイプルシロップを後日、各参加者へプレゼントすることを伝えると、森じゅうに歓声が響きました。最後に大塚さんは、「おしかリンクでは、メイプルシロップづくりなど牡鹿半島の海山で学ぶ多彩なエコツアーを企画していきます。この地域には、まだまだ知られざる楽しみがいっぱいありますので、ぜひ再訪してくださいね」と呼びかけました。

一般社団法人おしかリンク
<https://www.facebook.com/oshikalink/>

参加者の声



大石智子さん・さくらさん (仙台市若林区)

震災時は、智子さんのおなかの中にいたというさくらさんは、伝承館で見た映像や展示、クジラ料理の味が、とても新鮮な体験になったようです。智子さんは、「石巻市には、子どものキャンプなどで訪れることがよくありましたが、これまで意識的に被災地を訪問しようと思ったことがなく、このツアーに参加したことで改めて震災の実情について知ることができ、被災地支援について考える良い機会になりました」と話してくれました。



小原寿雄さん・美喜子さん (仙台市青葉区)

ウリハダカエデをなかなか見つけられず、かなり難儀したという小原夫妻。青葉区のご自宅はそれほど震災の被害は無かったと話す寿雄さんは、「伝承館で見学した震災の映像や展示パネルがとても印象深く、たくさんの学びを得られました」と感想を教えてくださいました。美喜子さんは、「シカの食害やおしかリンクの取り組みをこのバスツアーに参加して初めて知り、その活動の意義にとっても感銘を受けました」と話してくれました。

私たちも、復興のために「今できること」をともに考え、このプロジェクトを推進していきます。

IHI/アサヒビール 東北統括本部/岩手日日新聞社/NTTデータ東北/オリックス/キンピール 東北統括本部/ケーズデンキグループ・デンコードー/劇団四季/光輝ビルテクノス/サッポロビール 東日本本部
サントリー酒類 東北支社/JTB 仙台支店/住友不動産 東北支店/生命保険協会 宮城県協会/大和証券 仙台支店/DICグラフィックス/伝承千年の宿 佐助/東急リパブル 東北支店/東伸環境/NISHIKIYA KITCHEN
日本製紙/日本製紙クレシア/野村不動産 仙台支店/東日本油化工業/日立システムズ/平松剛法律事務所/藤崎/富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ/みちのく企業グループ/三井不動産 東北支店
三菱地所グループ/三菱重工機械システム/宮城県建設業協会/宮城県自動車整備振興会/みやぎ生活協同組合/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 宮城支社/Rethink PROJECT/河北新報社 (順不同)
©後援/宮城県、仙台市、石巻市、気仙沼市、岩沼市、東松島市、山元町、女川町、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

これまでの活動内容や新着情報は「今できることプロジェクト」特設HPをご覧ください。

www.kahoku.co.jp/imadeki/

河北 今できること

検索

facebookページもあります。

石巻市「牡鹿半島の海洋と森の恵みを体感バスツアー」

今できることプロジェクト2021-2022